

日本経済新聞 夕刊 (2026年2月2日)

駐日東ティモール大使 「ASEAN加盟で 日本の投資増期待」

東ティモールのテレジ
ニャ・ビエガス大使は日
本経済新聞の取材で、2



ビエガス大使

025年の東南アジア諸
国連合(ASEAN)加
盟が「日本企業の進出に
いい影響を与えている」
と述べ、さらなる投資の
増加に期待を示した。災
害対策などでの日本の経
済協力の拡大も求めた。
東ティモールは25年10
月20日のASEAN首脳
会議で11番目の加盟国に

なった。オーストラリア
との間にある海域の天然
ガス・石油開発が国家の
大きな収入源になってき
たが、資源の枯渇で同年
6月に生産が終了。この
ためASEAN加盟を通
じて、雇用を生み出す産
業への外国投資や貿易の
拡大をめざしている。
ビエガス氏は日本企業
の進出例として、竜石造
船の造船所や伊藤忠商事
による太陽光発電所の建
設計画を挙げた。竜石造
船の投資について「石油

・ガス分野以外の産業多
角化と海洋経済の発展を
通じて、国内経済の強化
に貢献してくれるのだら
う」と強調した。
常石造船が進出するこ
とで「他の日本の大手企
業が投資を検討すること
につながるし、さらに日
本以外の国の企業が投資
するのを促すこともあり
そうだ」とも指摘した。